

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	16 01 09	中期総合計画主要施策番号	3-04、3-05、 3-11、5-11	担当課	部・課	警察本部 交通規制課	
事業名	交通安全施設整備事業			内線	4528		
				E-mail	police-kotsukisei@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・交通安全施設整備事業を実施することにより交通環境の改善を行い、県民の生命・身体・財産を交通の危険から守るとともに、交通の円滑化を図る。					
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・交通事故の発生件数、死者数、負傷者数はいずれも減少の傾向にあるが、高齢死者が全交通事故死者の約半数を占めるとともに、自転車事故による死者が大幅に増加している。					
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・急速な高齢化社会が到来する中、長野県の高齢化率は、全国平均を大幅に上回って進行している状況にある。 ・高齢者、子供、自転車利用者などの交通弱者に対する交通事故防止対策が十分でない。					
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・交通安全施設の整備により安全・安心な交通環境を確立し、交通死亡事故の抑止、とりわけ交通弱者等の死亡事故抑止を図る。					
	事業内容	・交通管制センターの整備 ・交通信号機の新設及び高度化改良 ・交通信号機、柱の老朽更新等 ・道路標識、標示の新設、補修					
実施期間	不明 ~	根拠法令等	道路交通法、交通安全対策基本法、交通安全施策等整備の推進に関する法律				
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価
	・交通安全施設を整備し、県民の安全を確保する。(平成24年度までに交通事故死者数を全体で100人以下に抑止する。)		・平成24年度の目標達成に向け、事故全体死者数を120人以下に抑える。		・交通事故死者数は、118人で目標の120人を下回る期待どおりの成果があり、平成24年度の目標達成に向けて順調に推移している。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要
	最終予算額 (A)		千円	1,551,827	1,865,872	1,567,303	国庫・県単 国庫・県単
	決 算 額 (B)		千円	1,551,781	1,724,445		実施方法 直接、委託
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	688,971	531,335	360,196	歳出節別内訳等 旅費:81 需用費:33,543
	概 算 人件費	従事する職員数	人	11.00	11.00	11.00	委託料:42,525 使用料:12,474
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	1,630,321	1,803,084	1,645,942	(単位: 千円) 工事請負費:1,635,822
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績
	交通信号機の新設		基	56	49	42	・平成20年度の交通安全施設の整備効果(交通事故件数の増減率)については測定中である。
	交通信号機の改良		箇所	165	214	285	
	(参考)交通安全施設の整備効果(信号機設置場所の交通事故減少率)		%	63.7	調査中		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明				
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明 ・交通環境の変化や高齢化社会に対応するため、安全施設整備の必要性は依然として高い。 ・県公安委員会の管理財産であり、県で行うべきである。 ・交通安全施設を整備することにより交通事故発生率が大幅に減少しており、極めて事業効果が高い。 ・交通実態にあわせ、安全性、円滑性を重視した必要最低限の機能を備えた安全施設の整備に努めている。		
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	課題の総括		・当事業は、県民の生命・身体・財産保護の観点から必要不可欠な事業であり、交通事故死者数の抑制に寄与することから、今後とも適切に推進していく必要がある。				